

済みません。やはり、安い機種は、当分は出せません2

いやあ、ヘビーミカドの、コレクター向け完成品は、最終テスト動画が送られてきていて、これに対して、“ああでもない”、“こうでもない”と文句を言っていますが、まあ基本。コレクターのお客様を満足させる『域』には、全数到達しています。

(写真は10kgの牽引車両を引っ張った最終テスト風景)



これが終わると極少数の石炭焚機の改造に入ります。現場は大変でしょう。

さて、此のベクトルで我々は、次期モデルを開発していきますが、販売代理店の販売力が“弱い”。又は、**市場としてダメ**と、判断した国(日本とかね@苦笑)向けのモデルは、如何に機械的に面白くても、私個人としては触手を伸ばさないで、おこうと考えています。まあ昨日もビンさんから、Garratt(ガーラット)の提案があったのですが、機械としては非常に面白く、価格も8000ドル(百万円)以上には、成るでしょうけれど、ナローゲージファンにそんな大金が出せるのか？(基本ナローゲージ好きは、夫婦で、ガーデニング等も好きな中流家庭ですから・・・)また英国ベイヤービーコックが製造していた機種とは言え、活躍していた場所は、基本、旧英連邦(植民地)だけでしたの

で、果たして、本場英国程の市場規模があるのか？(無いわな)と云うのが懸念点でした。

我々も過去、スタンダード・ゲージのAD60(豪州NSW鉄道)と、ナローのNGG13(写真右)を出していますが、標準軌仕様は、当初金持ちのスイス、欧州大陸向けで、実際活躍していた豪州には10年後に出しています。

ですから、ガーラットのナローゲージ仕様は、

懐疑的なんです。実際、私の単純な計算でもライブの場合、ナローゲージ機でも百万円以上はするモデルになるでしょうから。

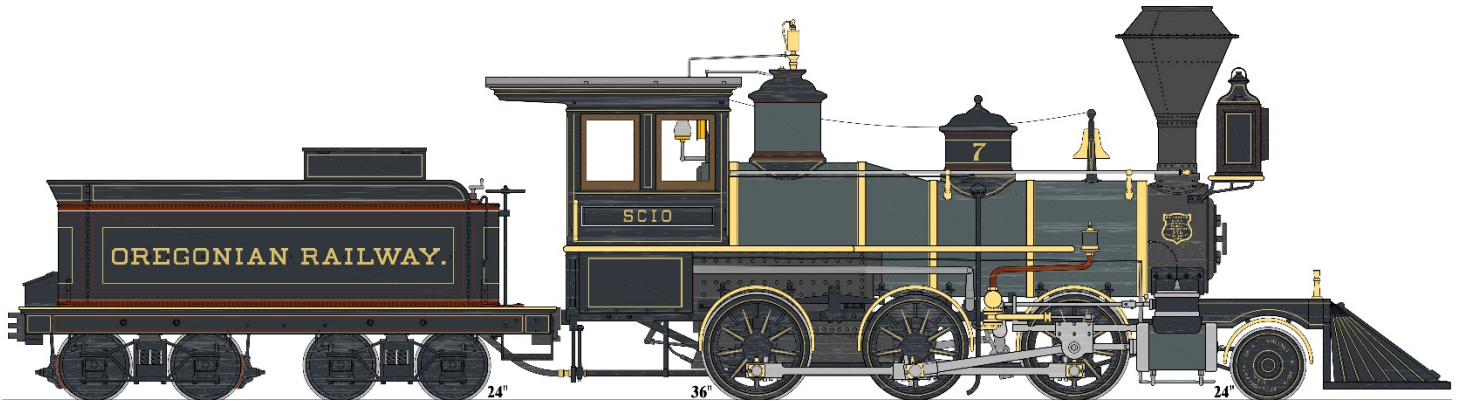
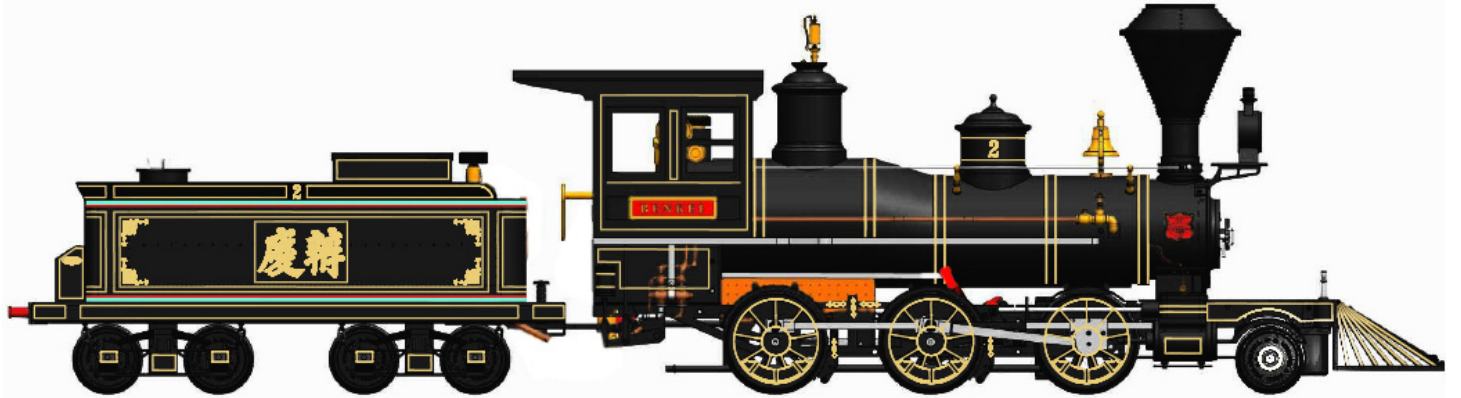


スタンダードゲージ仕様(欧州向けと豪州向け)

Japanese Only 予約特別価格は設定しますが。(価格未定ですが予約は、受付けています)

弊社経由で予約される日本人のお客様に対しては、北米や欧州のお客様みたいに150ドルの予約金を寄越せ！なんて野暮は言いません。只、他社製品との差を実感して頂けるだけの手間とコストは、かけます。正式価格は、まだ決定していませんが、弁慶でKIT2000ドルを切れるか？と言う感じです。

BR80は、3000ドルを下回りますが、2500ドルよりは、高くなりそうです。勿論、予約者以外は、定価販売で且つ送料と各種税金が加算されます。ご理解の上、予めご容赦ください。只、昨日今日、日本の為替やストックマーケットの環境が、円高に振れ直して来ています。 $\$ = 160$ 円近辺だったのが、今や140円代です。価格は、アキユ設定のドル価格です。まあ75円台は無理でしょうけど(苦笑)。購買力平価で言えば、実際は $\$ = 110$ 円台後半~130円が、妥当でしょう。基本的に、材料価格は、国際価格であるドルベースで検討しています。世界中、どこで買っても同じモデルは、同じ値段にする。と言うポリシー故です。此の夏季休暇中の為替動向を注視すると共に宜しければご検討ください。



弁慶の性能は、このリンク先で確認してください：<https://youtu.be/GENQ-Ntyk10>

イヤア、まだまだ勉強です。

英国の代理店(Accucraft UKに代わる)の1号機が、此の複式コンパウンドの蒸気トラクターなのですが、この蒸気の取り出し方と、加減弁がどういう仕組みなのかを理解できませんでした。いやあ、流石クラシック。単純な方法で制御し、超単純明快にボイラーから直で蒸気を取り入れているんですね。なのにコンパウンド？非常に矛盾した考え方です。19世紀末、イギリス人の考える機械は、南海ホークスです。

